

# 《上田市》 上田ボランティア地域活動センター

## 〔センターの基本事項〕

所在地	〒386-0012 上田市中央3-5-1			
電話 F A X	0268-25-2629	0268-25-2629		
電子メール	<a href="mailto:ueda.shakyo@ueda-shakyo.or.jp">ueda.shakyo@ueda-shakyo.or.jp</a>			
H P アドレス	<a href="http://www.ueda-shakyo.com/">http://www.ueda-shakyo.com/</a>			
職員数	正規	2名	嘱託	1名
	臨時	—	その他	パート1名
開所日と時間	平日 8:15～17:15 土日祝を除く			
情報誌	いきいきボランティア通信			
来所者数	年4回(1、4、7、10月)発行 年間 約2,000名			



いきいきボランティア通信  
キャラクター 「びくびく」

## 〔センターの運営方針・指針等〕

地域住民のボランティア活動に関する理解と関心を深めることを目的にその育成援助と活動のできる場を提供し、必要な連絡調整を行います。

## 〔センターの拠点整備〕

活動場所の提供	<input type="radio"/>	無料、対象者：ボランティア団体等の許可申請を受けている団体
フリースペースの設置	<input type="radio"/>	テーブル、情報誌、図書
資機材等の貸出	<input type="radio"/>	コピー機、印刷機は利用者負担 対象者：上田市ふれあい福祉センター利用者及び自治会役員
福祉体験器具等の貸出	<input type="radio"/>	高齢者疑似体験セット、車いす、点字器、DVD、ビデオ、CD図書等 無料、対象者：全市民
登録グループの専用ポストの設置	<input type="radio"/>	
情報掲示板・チラシ提供スペースの設置	<input type="radio"/>	

## 〔ボランティアセンター運営委員会〕

組織の有無	無	規約	無
名称	—		
委員構成	—		
事業への関わり	—		
工夫点	—		
課題点	—		

## 〔ボランティア連絡協議会〕

組織の有無	有	規約	有
名称	上田ボランティア連絡協議会		
協議会構成	現在の加盟数13団体 個人5人 7施設 連絡協議会の事務局は設立当初から社協のボランティアセンターとは切り離し、独立した組織として運営されてきた。		
工夫点	—		
課題点	加盟団体の減少が続く中、連絡協議会の目的や意義について再認識及び再検討が必要と思われる。		

## 〔財源〕

人件費	独自財源	—
	共同募金	—
	委託料・補助金	市補助金
	民間助成金	—
	その他	利息

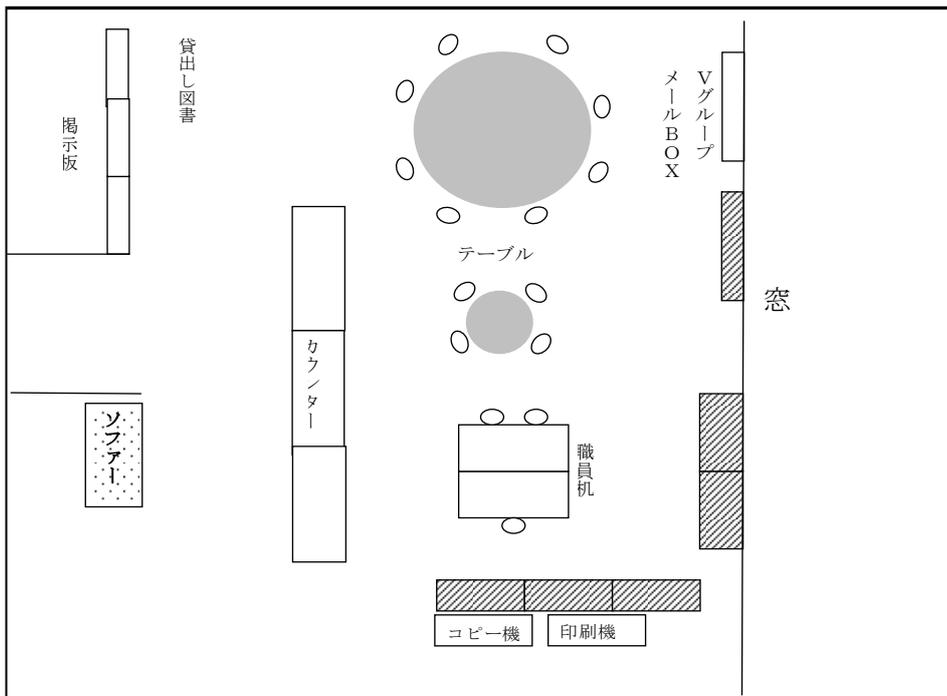
事業費	独自財源	○	社協会費収入
	共同募金	○	—
	委託料・補助金	○	—
	民間助成金	—	—
	その他	○	預金利息



〔事業計画・センター運営等について〕

○事業計画について 毎年度の事業計画について、どのように計画を立案していますか？	担当部署・担当職員間で事業計画を立案している。
○センターにおける中長期計画について 独自の中長期計画・アクションプラン等を作成していますか？	—
○アドバイザー等について センターの運営や事業実施に関して、アドバイザー等の助言者はいますか？	—
○社協VC以外の中間支援機関について 社協が運営するVCとは別に、他団体が運営する中間支援機関が地域内にありますか？	—
○連携するNPOや関係機関について VCの事業・運営において連携・協働しているNPOや関係機関等がありますか？	
連携・協働先	連携・協働内容
—	—
—	—
—	—
○センターの強みと弱みについて	
《強み》 制度や枠にとらわれずに、団体や行政等との連携を図りながら事業運営ができる。	《弱み》

○VC見取り図



○他市町村社協ボランティアセンターについて  
センター運営や事業実施に関して、他市町村社協VCに聞いてみたいことや知りたいことなど

## ボランティアセンターの重点事業について

事業名	夏のボランティア大作戦・スプリングチャレンジボランティア
目的	若者たちが、いずれ地域づくりのキーマンとして活躍できる人材となれるよう、リーダーシップや企画力を養える機会を提供する。 また、地域にはどんな福祉施設があり、どのような人が利用しているか施設でのボランティア体験をとおして知る機会とする。
開催頻度	年2回
内容	1 学生が中心となり、地域の課題に目を向け、自由な発想で自分たちが取り組めることを企画し実行する。 2 事前研修会において高齢者への接し方等についての講義やレクリエーションの実技を学び、希望する福祉施設において、最低2日以上同一施設でボランティア体験をする。
対象者	中学生以上
企画のポイント 事業成果	学生の企画では主体性を持たせながらも、舵取りが必要になる。結果も大切だが、企画が決定するまでの発想や意見交換等のプロセスを大事にしたい。 施設のボランティアでは、初日は戸惑いながらも2日目、3日目と日を追うごとに施設の中でどのように関わったらよいか、自分で考え行動できるようになった。
参加者の声や その後の動き など	施設の体験者は「施設の職員さんの利用者さんに対する接し方を見ていて勉強になった」という感想が多くあげられていた。

### 事業の様子



事前研修の様子



活動発表会の様子